特別
イ4
3163
59(2)

貴
14
3163
59(2)

堀川院百首和哥中目録

三井文庫

秋

立秋　七夕　萩　女郎花　薄
苅萱　蘭　萩　鳳　鹿
露　霧　擣　駒迎　月
搗衣　虫　菊　紅葉　九月盡

冬

初冬　時雨　霜　霰　雪

寒蘆　千鳥　砂　水鳥　網代

神樂　雁鳥狩　炭竈　爐火　除夜

清川院百首和哥中

秋

立秋

やうこと葉より吹そめ昔より風たに秋立日社淨ゆらう　公實

朝やうこそ紀秋のしるしなれ立ぬ日ハ山の端の月　医房

紅葉ちくさ変神のさしもさか我寢やしらや秋の　國信

時ちはやふるとたに吹風の言にそ秋ハ命とよ志ら　師教

物ゆこそ紀秋よ風の涼ゆ月ハ嬉ゆ秋よ哀やしゆん　敦事

秋立とゆきこの山の山ハ秋深ゆ吹川ゆ秋深ゆ　仲文

千年ゆ古殺八歌日世ゆ色と知ハ紀風よ秋深ゆ　俊教

見てとこたけ萩の上葉より風吹て秋きぬるとなよ　師時
吹風の萩の上葉より吉信くと日社秋の立日なれ　敦仲
独かく新しく常より秋立ぬと萩の上葉に秋きぬる　基俊
秋立とよりもところ風の吉より葉一やとる八月の月　隆源
秋きぬと見て秋ちかの吉しに八月の夜に出ぬる　肥後
秋の月ちこ山ゆ下衣手に涼きこと　紀伊
いつしとと思ハ秋より来ひ風より社秋さよりわと吉　河内

七夕

天の川あの漕れとた紀七夕よりてゆらこれ衣いさこや　公實
漢川秋をも月をもちる船をたと初秋と契初ん　匡房
織女に女家衣れ寄けさしあわぬ音も我ゆ家　國信
天川市に秋初れ七夕のくれを中川の秋の夜　師教
ひこ星はまれよわるれる天川ひこ星の立ち浪の立ち沖そ　敦季
渡守私しと乃ひ乃七夕れ乃ひあ乃は面と貴れ　仲実
七夕の逢の秋の吉川くよ八天川なこ乃川なこ乃ちや秋乃ん　俊教
七夕乃あ乃ぬ別の渡ゆやこれの乃つ乃と寄きる乃ん　師時
ひこ星のあまの家舟こ乃ちと乃ちそよ秋乃ん　敦仲
天川渡ゆ乃ゆ乃ひこ星のつまもひ舟家よ乃ん　基俊
中くよ渡ゆ一乃八七夕乃弱乃わひ乃ちさ乃成乃　隆源
七夕乃天乃羽衣重乃くあ乃ちさ乃我な乃ゆ乃弱ん　肥後

織女の星ぞのたしう海まなくしたりひくいとの糸のたえぬ物から　紀伊

ひさくとも秋やセ夕べ　秋よりもまれにあふこそまれなれ　河内

萩

ひまもなく西萩志をれわけの野の道行すらも袖ぬれにけり　公實

四月なかば鹿の志ぐるみうきてなかれぬ秋萩の花　匡房

秋萩はうきたちぬらもなかれぬ名をたれ初めつゝ見もはてぬ哉　國信

三笠山わさゝ川鹿は志ぐるゝ袖とまのひ萩花咲ぬ　師教

萩ぐもむ志ぐるゝ風ぞうらめしき紅葉もちらぬ人ぞ恨　顕季

折もはてゝとゝにさく萩の文成志られぬせゝ子ら寒の志ぐる　仲實

秋萩の志ぐるゝの寒ぞなれにけるさ海よもおなぬすり袖　後教

問われいたゝや咲ゝ今ら文成野の宿れ萩枝もたわゝ　師教

わさうひよみまゝもあるに白露れおくの萩の枝ぐるきハ　仲

鹿のあるゝうゝ行ひ鹿のしゝ手ら秋の萩原　基俊

鶉のやゝ花と咲ゝ花と咲ゝ咲ら海の萩原　澄源

志めゆひ引ゝ行ゝのわさ萩ハゆゝひ志ぐるゝ　肥後

墨染の志ぐるゝ秋風ぞ乱くさける海の萩原　紀伊

言問ハ野辺の志ぐるゝ秋ぞ乱ぬ人ぞ恨　河内

女郎花

約束ぞ乱ぬ人ぞ恨の女郎花一日も折ゝ乱の袖　公實

ゝくゆひの袖ぞ乱ぬ人ぞ恨　匡房

夕されば佐賀の里なる女郎花花にあらぬ秋ぞ来にける　幽信

露ぞ玉ぬきあつめける女郎花一もとゆゑ神ぞ知る　師教

秋雨にぬれぬれなびく女郎花秋はぬ色を見せまほしき　敬季

いにしへ人今をかぎりの女郎花花ぞ咲きぬる　仲実

こ音聞くかぐらの里の女郎花ものいはぬ　後教

いくしほあらの野辺の女郎花夕霧ぬれて風ぞ吹くなる　師教

夕霧に立ちぬれつゝ女郎花あるかなきかの秋の夕暮　敬仲

あるかなきかの秋の夕暮女郎花　基後

秋深き山の白露ぬれぬれて女郎花　逢源

月入るあれの宿の女郎花獨露けき秋の夕暮　肥後

女郎花白き雲ゆゑ秋の露なれば　紀伊

秋の夕露なれば女郎花むすぶ手毎にいつをかぎり　河内

薄

始風にまねくしすゝきのあり顔へ人露やあらぬ　公實

花すゝきなびくを見ぬ秋の色ぞ　延房

こゝ荒れ荒れ初め秋風ぞ吹くなる　幽信

ひとしほ初め秋風ぞ吹くなる　師教

風吹くなかの荒れ野に出でて見るうち靡くなる　敬季

露をいとゝ鶴なく野辺花荒れまくとゝ　仲実

なほ荒れ荒れて野辺の花ぞ　後教

一とせ[illegible]まつのはけ花落さ社ハ風の定なりけん　師時

見こゝろ[illegible]ハ[illegible]ひとしき[illegible]の落風[illegible]　別仲

ふる時雨さへ[illegible]の落誰をうしこゝろ種[illegible]　基俊

花落[illegible]神と[illegible]社ハ[illegible]ら社ハ[illegible]　澄源

夕雲の[illegible]ハ花落かの小誰をもしく[illegible]　肥後

社風にたゝひく[illegible]夕もくれ誰[illegible]　紀伊

花の[illegible]落[illegible]ら[illegible]ひも[illegible]　河内

新萱

社色[illegible]ハ[illegible]ろ[illegible]ハ下[illegible]を[illegible]ハ　[illegible]

ふる[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　國信

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　師教

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　仲実

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　俊教

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　師教

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　別仲

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　基俊

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　澄源

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　肥後

色そめよ吹秋風そうやれ四方の木ずえ紅葉ばの
さらさら秋風のみうらうらやよい河とてうの家の行く　河内

蘭

あきはぎてゆうべ野辺の蘭の葉野辺毎に見れば白露
ぬきさうけらくとは誰ぞもたらねひとの母をくる葉の
秋の野ふしくさゆめ葉ひしきて行くらん　国信
ぬくもりにおこさんと萩てうる秋の野風のなびく紙　師教
秋の野ゆ書きくの白萩ばうまきてうめ人のわすれ　師重
野毎にそおうひのみ葉秋のさうけ絶ぬ撫　伊実
海ばうく籠ゆきひ萩ばうまきてさいの踏ちる秋　後教

秋毎ゆ面れきくみとと変ばうまきぬ若思ゆ白露　師時
秋風ゆすう野ばうるうもきて後清ともなびく野　伊
あき風の目ゆ吹ハ葉ゆ今ばうるひなうる　基後
ぬゆやうきぬゆ今ばに葉野毎ゆ見れハうるひなう　逢源
能田山麓ゆ白ばうばうばうば清きてうるうばう書ハ　肥後
萩ばうば清きてあうんなやしき書ば白ばう多ハ野　紀伊
秋雲やたらうんおうるうか野毎ばに白ばう物ばうば　河内

萩

秋きてもゆうべ野ゆ萩の花風ゆ河きてうてうとつまうう　公賢
あきくぬとばのゆうべに清きゆ萩の葉風ゆきうきあうら　廷房

萩の葉のうらはのそよめきて秋の風吹くなり　國信

さらぬだに秋の哀はいかなれば萩の上葉に吹かぜの音　師教

山里に吹かぜ寒くなりぬれば萩の葉ごとに露ぞこぼるる　弘仲

夏月　萩の葉のあつき涼しきのまふ葉の風のそよぎ吹くらん　仲実

萩の葉の茂葉は抜よしたてはいと金はしやの音　後教

うらみなれ秋宿の萩の葉のいとはくるものもまれ　師時

今もとは葉の夕暮ハ萩の葉の葉ごとに人のめぐる　弘仲

秋風のやうくしく吹ものよ萩の葉の葉のそよぎ　基俊

秋の夜なれ宿るれハ萩の葉のそよぎとなるあはれ　俊頼

つまくとさびき宿の夕暮ハ萩の葉風そ人のめぐる　肥後

萩の葉を吹こし風も哀なり秋の夕暮を告ぬる　紀伊

さらぬだにそよぐ夕暮ハ萩の葉の上に秋の風　河内

鳴

雲井より鳴の音聞くなれば公賢

秋霧ぞ立ぬ初雁の音ハ雲の上にぞ聞ける　廷房

この戸ぬ初雁ぬ鳴ぬ秋の風ぬ猿ぬ金　國信

秋ぬ出ぬ久敷なりぬ秋の風ぬ鳴ぬ　師教

鳥ハ鳴ぬ虫ぬ鳴ぬ秋ぬ鳴ぬ　教季

ひとつ鳴ぬ虫ぬ鳴ぬ秋ぬ鳴ぬ　仲実

鳴ぬ鳴ぬ秋ぬ鳴ぬ　後教

雲うくれなのうの枕つくゆく春の名残をしき秋の暮　師時
春秋よりゆくへ帰る雁ハいつ方なれ拾ふらん　俊仲
宇賀よりめてさうか初雁の秋ハいもう後ケしねと　基後
羽うろこ雲ハ秋ハ多も初雁ハ秋ハ多も初雁ハ秋ハ多も　滝源
初雁の秋ハ多もつけて雲ハ秋ハ多もつけて　肥後
ことりや秋ハ多の色ハ秋ハ多の色ハ秋ハ多の色ハ秋ハ多　紀伊
雲うくれなの山ハ秋ハ多の雲ハ秋ハ多の雲ハ秋ハ多　河内

鹿

拾ふ人ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　公實
かつらのうらかぜハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　延房

書ふ人ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　國信
夕月夜ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　師教
よもの山ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　聚季
高砂の尾ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　仲実
よもすがらハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　俊教
月の入ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　師時
世中ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　俊仲
色ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　基後
よしの山ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　滝源
三笠山ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多の鹿ハ秋ハ多　肥後

あくいなく哀えて世の揮毫の書意うるてしうるの時 紀俊
幸道の書のつきに時歳へ行くよりぬ言葉なりて 河内

露

山くれ風よ志ほるる白露の玉ぬきうる言の葉 公實
月雲よ世ちう夜いけをん拙きうる成わさよ白露 延喜
露志けさ聞へを山ちうきあ垂のるきあのち 國信
志のめの野露ゆうき濃草生八玉つらぬる露ふ 師教
風吹八先ちるひく濃草生いて垂れ枝のよの露 敦忠
白玉ろ庭よ生けるを志のひ行るうきはるる 仲実
世間も知る垂露を言まして孫ふ夜八志われ 後教

孫夜れきるくうう四月の光る海ふ玉きふ露 師時
小藤原志言ふ垂る白露を拙八孫世ぬ玉ふ拙 敦仲
濃草生成生のよ行ぬ垂露を生ふの玉ふ思ふ 基俊
玉成ぬる あきちうの朝露を行きくさ風ふ濃 澄源
白露と人八いとも聞へ言れ世く花毎ふる玉数 宛後
月八みき風よみけり市村の露拙玉成ぬきみ行 紀俊
朝日さ風小藤うの露ふりもわかのふかる命の川 河内

雪

雪ふ風ふ河雪ぬちこあて玉ふ井よふ山ふ新白 公實
河雪の新のふ月ふりふ風ふそこふもみくぬふ拙雪 延喜

[illegible]　國信
吉野川流れもみぢの葉の音かやるせの浪の音のうつる　師教
日波の音ばかりてみやまぢの音ふきちらす風の里　藤重
山田やうりたうこれ緋ゝ[illegible]くるり結ぶ[illegible]　仲實
物自さんかの川の音ばかりもて流れ[illegible]　後教
秋吉の松山川ふきちらめれて下もいつる[illegible]　師時
夕[illegible]ふきちやまとへ[illegible]　藤重
あさ山[illegible]　後教
河音に流れもみぢ[illegible]　後
[illegible]　後

秋吉の[illegible]　紀伊
いかるさん[illegible]　河内

樓

ありさこれ[illegible]　五[illegible]
田[illegible]　[illegible]
山里の[illegible]　國信
あさ[illegible]　師[illegible]
[illegible]　藤重
あ[illegible]　仲實
樓[illegible]　後教

あさがほの花は深山の奥にのみ咲くものと思ひ
なれし事なれども今はこの国の人家にも植へて
朝ごとに露をふくめる花の色あさやかなるを
見るにつけてもいにしへ人の歌に
あさがほの花咲にけりあさ日さす
ゆふべ咲ぬる事もあらじと
詠ぜしこころ思ひ出られて面白き
駒迎

遠江の国浜名の湖とは
名所にて昔の文にもあるとぞ

師時

孝仲

基俊

清原

肥後

紀伊

河内

五賀

遠房

遠江の国浜名の湖とは
名所にて昔の文にもあるとぞ

國信

師教

孝基

仲実

俊頼

師時

孝仲

基俊

清原

肥後

数をしぬ君ゆくあとの月ぞ八いくよの秋か逢坂の関　紀伊

逢坂の秋の村雨をかけさせて面影ぞ河内

月

さやけさは月ぞ秋のしるしなる袖のしぐれぬるかぬれぬる　公賢

袖もうき波の浜ぬれ物うきれと庭すて月の影すなる　延房

風吹いこの山の山に雲たなびく月の浦まさやかる　國信

天の原雲を分て月を誘れて秋のもあるよの手まて横ぎる　師教

山の端よりさしふ月のうけ物を嬉る我そ今をうめそ　教家

流しもふ月をなしよ物の原舟出の　仲実

末松の雲の絶もふなひとしさ元月のとまの影　後教

雲の月をあらしふ秋の月は新の流さハ　師時

かもめ物うきの水ハ物をまれと庭こ月の新ハ寸分　教仲

秋の月園よさしへ月新のあるあるよあく原山の端えき　基後

ハいくとも月ハ月をいたれハ月をいたれハ月ハ月ハ月新ハ今ハ行ぬ思ひ　滋源

久堅の月ぞ雲ハ嬉ハやを流めりの月ハ　成後

山ぶしよ赤松ぶしつひ岩川のそこ人響と秋の月ぞ　河内

情衣

しひつや嬉うつうん唐衣さあるの意に写こ　公賢

衣うつ打ちのぬとうあひひなれふ沢意の都ぬ　延房

[illegible]

國信

[illegible]

師教

[illegible]

孔雀

[illegible]

仲文

[illegible]

後教

[illegible]

師時

[illegible]

孔仲

[illegible]

基後

[illegible]

逢源

[illegible]

肥後

[illegible]

紀伊

[illegible]

河内

出

[illegible]

公實

[illegible]

延房

[illegible]

國信

[illegible]

師教

[illegible]

孔雀

[illegible]

仲文

[illegible]

後教

[illegible]の義さて大てゝ社ハ社ねゝ　師時
山里は蔦ゆゑのうゝやに乱もあつて出れ[illegible]　孔仲
燃蛍あれのうきれハ秋しさう出れ[illegible]　基俊
社ゝ[illegible]出の義[illegible]ハ[illegible]　澄源
[illegible]人新もせぬ[illegible]社松出のゝ[illegible]　肥後
社ハ[illegible]出の言[illegible]　紀伊
[illegible]社ハ[illegible]　河内

義

毎の月よ人[illegible]朝毎よ[illegible]社花のゝ[illegible]　公實
[illegible]自ハ[illegible]義[illegible]社義[illegible]　道長

[illegible]ハ[illegible]　國信
[illegible]の[illegible]の[illegible]ハ流を[illegible]　師教
[illegible]義ハ[illegible]　孔孝
金[illegible]ハ[illegible]義ハ昔[illegible]　仲実
[illegible]ハ雪よ[illegible]白義[illegible]義の[illegible]　後教
義[illegible]社[illegible]宿の[illegible]義花　師時
白義白[illegible]ハ[illegible]月よ[illegible]咲[illegible]ハ[illegible]　孔仲
[illegible]門の[illegible]義[illegible]　基俊
義の[illegible]ハ[illegible]流をのゝ[illegible]　澄源
[illegible]義白[illegible]義[illegible]ハ[illegible]　肥後

[illegible] 紀俊

[illegible] 河内

紅葉

[illegible] 公実

[illegible] 匡房

[illegible] 國信

[illegible] 師教

[illegible] 俊重

[illegible] 仲実

[illegible] 俊教

[illegible] 師時

[illegible] 俊仲

[illegible] 基俊

[illegible] 澄源

[illegible] 肥後

[illegible] 紀伊

[illegible] 河内

九月盡

[illegible] 公実

[illegible] 匡房

気くしの来るまで秋ハいくの田の森にいつ出て行ら　國信

さわさやと山のうしろ人雲さ行くゆふ風ハ秋ハ来ぬ　師教

野辺のちりて残る木のゆや蓋り秋の来ぬ海ハ　駿季

井せ花ハいとゆるくとよる和をとゆ〻ていよ秋の色ん　仲実

ゆるく行秋ハ花の来るはもゆくゆるんさらやと　後教

うしろくに咲く出のさしもうさきさひ行く秋の蓋　師時

人なりと色ハ〻ハいつはもうへきに秋の刻を　駿仲

うしろめて鹿計秋行発ちひさ〻ひも色ハ秋ハ　基俊

七月の今そ来ハ秋ハ山ハ秋ハ行きと言て咲ハ　澄源

うし計行んもうへ夕雲のとゝもにちてや秋の行ら　肥後

むさうにあひく色ハ〻ハうもゆうて行袋秋の蓋　紀伊

命ハ〻ハやもてゆ〻ハ蓋ハ〻ハ秋計の秋の来ると　河内

冬

初冬

那日社秋ハ行ハ〻ハつのまに蓋ハ袋ハ冬ハ　公実

行田川あきの来ハ冬ハ行ハ〻ハ秋ハ冬ハ　運房

神ハ月ま〻冬ま〻ハ冬ハ冬ハ冬ハ　國信

冬ハ行ハ〻ハ行ハ〻ハ猶ハ行ハ〻ハ袋ハ　師教

那日ハ〻ハ冬ハ〻ハ梅鹿ハ冬ハ〻ハ冬ハ　駿季

泉川水のみ〻ハ冬ハ冬ハ冬ハ冬ハ冬ハ　仲実

いけうの秋の名残を惜まんとて初八本歌も所吹き　後頼
暮へくるや冬ハきぬらん第五の歌は垂白の春乃雪ぞ積　師時
海わたるきの松の第一の歌は春とこそ下葉より冬ぞ分　孔仲
雪や冬ハきぬらん母うへ社拾遺の第五の歌なり　基俊
冬きぬと人こそ言へ初雪ハ川のほとりの波の白菊　澄添
紅葉も落ぬ秋とて毎年春ハ来ぬ物と海ハ成ぬ　肥後
風さわぐ冬ぞ来ぬ山の後の松ハ海ゆ来ぬ中　紀伊
綾の男ハ初白雪ふれそ川ハ冬ハ来ぬ物と　河内

時雨

孫ゆ第五の歌やうけ中ぬいやもきこえれ初時雨　公実

うらうへ第五の歌ハ秋そ初ぬ冬ハ来ぬ　法房
源の白の時雨てはうへ毎ようへ海ハ冬ハ　國信
冬ぞ八河雨ハ第五の歌ハ春ハ来ぬ　師頼
あまうへ河雨ハ袖もぬれぬ春ハ来ぬ　孔季
水鳥の青羽の山も神青月時雨ハ春ハ来ぬ　仲實
木葉の雨ハ春ハ来ぬ時雨ハ冬ハ来ぬ　後教
神無月河雨ハ雨の高ハ新ハ第五の歌ハ　師時
河雨ハ日数ハ冬ハ来ぬ春ハ来ぬ　孔仲
時雨ハ冬ハ来ぬ春ハ来ぬ初河雨ハ神無月　基俊
河雨の雨ハ第五の歌ハ春ハ来ぬ神ハ名も春ハ　澄添

みちくさ人もさびしき秋山里八時雨ばかりわけて色づくなり　肥後

雨夜月時雨ばかりあつまやま夏ぶるまさる人も遠世ぬ　紀伊

今りし時雨の雲を空さしてやあれり宿のうるるる　河内

霜

ゆふぎりのはれ雲のうち久しく八聘のうへ光もしいよ濃　公實

さ霜の尾上の梢のおとはるり曉ふけく雲やおくらん　医房

乃芦の葉のうち揺雅さこそ海さとふくも出ぬるかな　國信

いかにさて朝戸おりぬて月淚八乃葉ちるおくる懐　師頼

投疑よもの秋やれさしけものさやく雲の聲ぬ　俊秀

年ふれと秋の山ぬくさよ雲の雲の上とさの影　仲文

伊吉のうの末のうくさき行もあるて雲の雲海ふ冬ぬ　後教

神位のさ宮ぬ山ぬよ雲の雲ふれ雲ゆ雲てうけぬ揺ぬ　師時

乃芦さよ雲や雲乃さ雲ふ雲く片岡神の雲海ふうか　孔仲

横生ふれ小野く淺芽に雲雲の白浪ふ迄八ふ夏風　基後

初雲よ羅の雲い生ふうさ雲ふれ雲や野毎ぬ　澄源

雲かくや朝行乃の松さ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ　肥後

松雲雲八生ふの八雲よ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ　紀伊

雲雲雲暮の上生やいれ乃ん生ふ雲ふ雲ふ雲ふ雲ふ　河内

霧

むさぶる霧ぬ雲八ふく雲さゆるうの雲　五實

金ぞく羅八門とさせれた声すり秋ハ霞たなりけり　延房

あやまりの織乃すりやの志てかへて山としらぬ霞哉　國信

みち路く今も動ぬ山里に冬のよそすり霞立かな　師執

今めかば霞ひきつゝ我袖を衣に包むもやかんち　凡季

さよ宿ろ今日は交せんや萩の名残に霞たなびく　伊笑

意をぞむつかしくも立ぬ常なれハ霞たなびく松の　後執

よき宿に霞ひきつゝ山里ハ昔の庭に移る花さら　師時

なつの梅の枝やの雲ひさし霞ひきつゝ冬をさきにさ　凡仲

枝ある霞むらくろ我床ハぬきさみてさら也ぞ散る　基俊

柳ころかぬ人ハあらしか暁の霞の花乃柳ひさしさし　澄深

枝ある霞みるやハ白山やよその衣の花をみあん　肥後

うき草し濡はよふる霞むこふ山松くの風にあくいて　紀伊

ぬきさみゆり白雲とそ散ハあつ木の花は上にかれ霞ハ　河内

雪

浦すう梅の枝乃花の光ふりし沢路より雪ふりかゝり衣せよ　公實

ひすきん来の松山浪こさば峯の秋雪消し独すれ　匡房

吉野山冬の川上雪ふる二種や氏の名を知る志らん　國信

うき雲しまゆ川はまこ淀雪のいく重梅が枝越の　師執

志らぬ露の路を坂山とを越へ風に小篠の葉ぶ雪淀はならり　凡季

蹟なきく跡さるくさんこす山への志ら雪志のきこ雪の　ますつは　俳笑

[illegible]　後鳥羽

[illegible]　師時

[illegible]　弘仲

[illegible]　基綱

[illegible]　隆源

[illegible]　肥後

[illegible]　紀伊

[illegible]　河内

[illegible]　公実

[illegible]　庭房

[illegible]　國信

[illegible]　師教

[illegible]　敦基

[illegible]　仲実

[illegible]　後鳥

[illegible]　師時

[illegible]　弘仲

[illegible]　基俊

[illegible]　隆源

なかれ浮世の業の風吹かぬ　肥後
さを方よ家のやすき世の雅　紀伊
余所のみの世の業を孫とかりよ　河内

千鳥

志の浦の松吹風のさびしさに夕波よるちどりなく　公實
月新の松の浦を漕ぎ分くる舟人なくあけぬ　匡房
夜くれるしまてたきに沖の白波や満ち　國信
よせさ寄せくる浦の波風よ波くるくるこそ　師教
歌ちどりの志ほるく掛ずるさ紀河原に風や吹　弘季
橋ちやくの浪よせくに暁ぬ波くるなくあり　仲實

あなし吹小磯の波の須磨の浦の夕なぎ　後教
大井川くれ行くよりとろさてい世紀よきあり　師時
風さびしくやあはれんとるるの深草の里　敬仲
雪ちくく波消もみぬさ保川の志ほ　嘉後
よやさびしき友や鳥なねくく笑ぬさの川風　澄源
白浪ちくちくて淡路のまつくちる波　肥後
浦風の吹上の浜ちくて海の波ちくよりの　紀伊
波ちくの千鳥のこゑを志ほ入てあまのとまやて　河内

氷

海ちくおのの子流の分岐つ家ちひやうトハ沙ちくは　三實

河つれ紫つゝ車いくすぢ沙のくさひ冬ハ角くせし　匡房

よ[illegible]さむゝ河いしの氷あつゝられハ朝寝の水[illegible]浪ハ[illegible]　國信

山里のよゝの冬の[illegible]れハ細谷川ゝまれ沙けるとゝ　師教

浪面てう岩ハ隠なくうらひ[illegible]く沙間ゝ[illegible]川の水　敦基

[illegible]ゝ[illegible]ハいかの[illegible]　仲実

[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　後教

山里の岩の下ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　師時

山門の沙[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　敦仲

[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　基俊

氷[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　澄[illegible]

冬[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　肥後

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　紀伊

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　河内

水鳥

朝戸明ゝ猶新みる池ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　公實

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　匡房

氷[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　國信

池[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　師頼

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　敦基

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　仲実

志賀れ芦原をしはの不に波あらしの鴨はよき無流て　後嶺
川せのあらさゆれそうの鴨の毛羽の霜や　師時
氷色八重のさ枝重さくさゆあまれの霜　那仲
白雪のさ枝重さくさゆあまれの霜　基後
浦かしの武みくもの月をいくくかりもうの月　隆源
池の底に沢れくかりの月は波やちさく　肥後
池水のうの月のかしらにいかさく碧のつひのたかねら　紀伊
白雲のつもりきのうの沢の花の雪よれ　河内

細代

あくけの年のよ幾たちぬ細代より幾や弦ん　公実

さ波やをしの海のあり乃本浪ともやひをハよりん　達房
田上の澤ゝ紅あり乃ま見幾へつ我やさへするろかる　國信
細代ゝ本に郷ゝ世アるゝ田上のその松山に本を散し　師頼
舞少のうゝ海ゝ氷色のゝ宮細代の石成ゝく　那季
月吹八田上川のあり乃本ま寒の彩しり紅へさうる　仲実
波ゝ本に つゝ細代の五葉ゝく最へてゝん　後教
沙奥乃よるひまうゝ田上やうゝ細代の布　師時
舞ゝ田上川のあり乃本のハゝひよりとも言ゝ　那仲
山月ゝ本の葉海くうゝ川の細代ハひとのゝ本　基後
白浪のもて弱ゝ細代ハひとのゝ本　隆源

沙眞のうら門漕こみゆる網代木にはち白浪の打ちやうら　肥後
網代木に浪のうつくやうわらくあや麥り紙つ筆　紀伊
浪もなく白浪うつる網代木を沙眞のうらやのうらん　河内

神樂

天とつる神のいさらやうとうや庭火の煙をみゆらん　公實
曉の星きえさらぬ榊葉の葉ちも榊袖のまうつ村　廷房
榊とるもいつくあ松よ冬のよ天のいんことぬ月へさが　國信
千早振神のいも庭火ぬくしと育れ神まうけさらめ　師教
榊葉とる榊葉よりく葉のこけさらめやハ神のいも　敦雅
庭火ぬく天の岩戸乃神さはあめうらうら松も榊き　仲實

うらうみよ神ふりそこのもりけとこの実つこ庭火白くぬ　後教
ゆふつけくやふ社の神系中を榊あさ金の面白乃　師時
きりたきさくぬくきの榊よ立れうきわうらハ的天の岩戸　敦仲
よ成きあうこ立榊葉より垂葉をきゆ毛とやうら　基俊
庭火の庭火の岩あうきうけくうつる神をこなそ榊き　澄源
榊葉やこ成くの松よ松こ立てうきつけくもあそふ成　肥後
榊葉よゆうくつけく結へのこ成ハのこし松つへきが　紀伊
こ成とう庭火のまへうる葉を面白とや神しりる榊　河内

鷹狩

狩場うらん羽の言しハたとハ白毎の言るとやかうん　公實

[illegible]　　匡房
[illegible]　　國信
[illegible]　　師頼
[illegible]　　歌枕
[illegible]　　仲実
[illegible]　　後教
[illegible]　　師教
[illegible]　　歌仲
[illegible]　　基後
[illegible]　　逢源

[illegible]　　肥後
[illegible]　　紀伊
[illegible]　　河内

炭竈

[illegible]　　公實
[illegible]　　延房
[illegible]　　國信
[illegible]　　師教
[illegible]　　歌基
[illegible]　　仲実

炭竈の煙なるれと世をいとうらくも思ひなるる　後鳥羽

すさまじき風まさる煙さへ小野山ハ雪けの雲もしくれぬる　師時

さしの法冬社まされたる雪や焼炭の煙の行すゑ　藤仲

とみ竈よ新こるとけく冬くれぬたの道をふるき雪の下へ　基俊

炭竈のけやあくるん小野山ハ雪ゆ煙のあるかたちの名ハ　隆源

みゆ山ハ雪ハ焼きもの風よこわけて煙あくせぬ天の雲　恵後

ほの山の冬のそ雪ハ焼ますけの炭の風煙ちまさ　紀伊

次の浦に塩やくあまの煙と見てまよひの小野の炭　河内

燒炭

塩炭の下にうるかひやるしの消ぬるをへ初ゆは　兵実

やはよりくゆ海さわきこるるる塩炭ハ舟なこ時ふかこれ私　延房

いふこともなれ紀塩炭を水ハ山ハ冬ハ雪の初ハ　國信

塩炭の下にこるる寄ハ今ハ海ハ　師教

山里に焼ハ塩炭ハ松ハ吹ハ　敬実

ふとくもよ月ハ塩炭のうへ月ハ世ハ　伊賀

いふもん炭の下なる塩炭のうれてのこ消ハ　後教

雪のなるる汐ハ塩炭のこ春ハ海ハ　師時

塩炭ハ焼ハ海ハ人のつ海ハ海ハ　敬仲

下ハ月ハ上月ハ塩炭のこ海ハ　基後

塩炭のあるる海ハ冬ハ海ハ　隆源

[illegible]

[illegible]　肥後

[illegible]　紀伊

[illegible]　河内

除夜

あすとてハ雲の花といふべきとしの外　公実

吉野川ゆるれくすく流れの底の新しき春に成ぬ　道家

何事を祈るとなしに明ぬれハ　國信

けるくてとしよたれる年月ハ我身のうへ　師教

門出せいとるこそうそれとしをはるこそ　[illegible]

ゆくとしの明ぬいのんかくしとなれ冬もとしあるる　仲実

[illegible]　後教

[illegible]　師時

[illegible]　[illegible]

[illegible]　基俊

[illegible]　隆源

[illegible]　肥後

[illegible]　紀伊

[illegible]　河内

[illegible]

[illegible]